そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第76号 2010年2月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　木村　雄峰
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

ご協力ありがとうございました

田中青史理事長に助け合い募金20万円を手渡す恵島誠人会九州支部の増本澄子支部長（右）＝09年12月25日

募金総額は660万余円

歳末助け合い「愛の義援金」 前年度比255万円の減少

毎日新聞社と当西部社会事業団が広くお願いした09年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の集計結果がまとまった。海外救援金、小児がん征圧募金を含めた募金総額は1035件、660万7305円に達したが、前年度に比べると255万円余り減少した。一般募金は児童養護施設や母子施設、障害児施設などの子どもたちへの新入学や卒業の祝い品プレゼントや福祉諸団体への助成金として、他の指定募金は関係機関や団体に配分します。ご協力、ありがとうございました

一般募金はわずかに増加

「愛の義援金」は毎年12月の約1カ月間を募集期間と定め、過去に何らかの募金を頂いた方や歳末チャリティー展でご購入頂いた方々などに募金をお願いするチラシや振込用紙などを郵送しており、09年度は約6000人の方々にご協力をお願いした。

その結果、早いものは11月末ごろから集まり始め、師走スタートとともに続々と寄せられて、連日50件前後の振込通知が届いた。特に週明けの月曜日は100件以上になるなど、担当スタッフは管内地域面に掲載する募金者の住所・氏名執筆に追われた。しかし、一昨年秋から続いている世界的な不況が募金にも影響したとみられ、総件数は1035件と前年度に比べ31件減少し、募金総額は660万7305円で前年度に比べ255万8981円の減となった。

減少した最大の要因は海外難民救援金が伸びなかったことだ。昨年度は歳末募金のスタートと歩調を合わせるように紙面と連動した海外救援キャンペーンの連載が始まり個人で200万円を寄付して下さったケースもあったが、今年度の期間中に寄せられた海外救援金は112件、64万1149円で前年度に比べ27件、76万6440円減と激減した。しかし、海外救援金以外の小児がん征圧募金は103件、60万4078円（前年度96件、41万3642円）が寄せられ、一般募金も820件、536万2078円（同775件、534万5055円）で、いずれも前年度をわずかながら上回った。

09年度歳末助け合い募金集計

	09年度		08年度		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般募金	820	5,362,078	775	5,345,055	45	17,023
海外救援金	112	641,149	195	3,407,589	-83	-2,766,440
小児がん	103	604,078	96	413,642	7	190,436
合計	1,035	6,607,305	1,066	9,166,286	-31	-2,558,981

歳末募金を原資にした児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼントは例年通り、この春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちが対象となる。

今年は福岡、山口、長崎３県の１００カ所の施設を対象に、事前に調査用紙を配布して、対象者数などを調べてもらった。その結果、対象者は90施設に７２９人。新入学児童にはランドセルやリュックサック(水筒付き)、手提げ(筆箱付き)、雨具セット、図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには目覚し時計か図書カードを贈る。

このほかには、歳末募金の第二次配分として福岡・山口県内の児童福祉連絡会や交通遺児を支える会、九州盲導犬協会、福岡・北九州のいのちの電話、北九州あゆみの会、障害福祉ボランティア協会など福祉団体に活動助成金などを贈る。

一般募金は毎年、歳末募金事業として活用し、恵まれない子どもたちへの祝い品プレゼントや福祉諸団体への助成金に充てているが、一般募金依頼状や振込手数料や募金経費などの募金経費を差し引いた約4300万円を原資とし、不足する約2147万円は歳末チャリティー即売展の益金から補てんすることにしている。

◆出発を励ます集いが開かれ、平野さんが決意表明

第29回出発を励ます集い（北九州市、北九州市手をつなぐ育成会主催▽毎日新聞西部社会事業団後援）が１月30日、戸畑区汐井町のウェルとばたで開かれ、入学や卒業、成人、還暦など、人生の節目を迎えた育成会会員の知的障害者96人に当事業団からの記念品が贈られた。

96人を代表して八幡西区の桑の実工房で働く平野駿介さん（20）が「たくさんの人に出会い、たくさんの応援をいただいた。感謝します。これからは僕も他の人を応援していきたい」と決意を述べると＝写真＝、会場から大きな拍手が送られた。

美術ファンでにぎわうも売上は減少

歳末恒例のチャリティー即売展開催

北九州、山口、福岡の3会場で

多くの美術ファンが詰め掛けた北九州会場

全国の一流作家の先生方のご協力により、毎年末に開催している当社会事業団恒例の歳末チャリティー『全国寄贈書画・陶工芸品即売展』が12月、北九州、山口、福岡の３会場で順次開催され、多数の美術ファンが詰め掛けた。しかし世界的な不況と開催時の悪天候などの影響により、売上高は１７００万円台にとどまり「１００年に一度の経済危機」と言われた08年から連続して落ち込んだ。

即売展には、全国の洋画家、日本画家、書家、名利の高僧、陶芸家、工芸家、芸能人ら８４４人から１５３４点の作品が寄せられた（前年度９４８人、１７６１点）。これらの作品を３会場に振り分け、前年度の即売展で残っていた作品と合わせて展示・即売。いずれの会場でも特に著名な作家から寄せられた作品約１００点は入札方式とし、２日目に集計して落札者を決めた。

会期と会場は12月５、６日が北九州展（小倉北区の毎日会館）▽12、13日が山口展（山口市の山口井筒屋）▽19、20日が福岡展（中央区のアクロス福岡）。３会場のトップを切って開かれた北九州展は、開場時刻の午前９時半より１時間も前から美術ファンが訪れ、長い列を作るほどの人気。

今年度は３会場ともあいにくの雨天や降雪などの悪天候に見舞われたが、歳末恒例の催しとあってすべての会場を訪れる熱心なファンの姿も多く見られた。また鹿児島や熊本、長崎など九州各県にとどまらず、東京、岡山など遠方からの来場者もいた。

今年度もこれまで同様、事前ＰＲに重点を置き、チラシの作成・配布、毎日新聞紙上での特集記事掲載、各会場展直前の地方版社告、ＲＫＢやＴＹＳなどＪＮＮ系列テレビ局でのニュース放映、事業団ホームページでの作品紹介などを実施した。また毎日新聞社系のフリーペーパー「まいにちまいむ」や「Ｓｕｎｄａｙ北九州」にも事前に紹介記事を掲載してもらい、盛り上げを図った。

響いた世界不況と悪天候

しかし、一昨年来の世界的不況や当日の悪天候の影響により、来場者の出足は鈍く作品を買い求める人の数も例年に比べ伸び悩んだ。売上高は別表の通り、前年度比でいずれも１割前後下回る厳しい結果となった。09年歳末展で売れ残った作品は、３月６日に北九州市の毎日会館で開く年度末展で、価格をさらに値引きして展示・即売する。

即売展の売上から諸経費を差し引いた益金は、多様な福祉事業に活用。児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉、交通遺児支援、ホームレス自立支援などの活動に取り組む団体や各種施設への助成金などに配分する。

09年度歳末即売展収支概要　（単位：円）

売上高		経費	
北九州	6,538,447	書画材・額等	4,098,628
福岡	5,220,513	会場費	2,513,079
山口	5,791,522	労務費	2,431,100
09年度計	17,550,482	通信・印刷費	1,007,880
※参考	08年度売上高	輸送費	972,910
北九州	7,077,555	旅費交通費	97,330
福岡	6,833,139	事務費	126,975
山口	5,307,056	資料費	11,130
08年度計	19,217,750	雑費	54,971
09総売上(A)	17,550,482	総経費(B)	11,314,003
益金(A－B)は社会福祉基金へ＝			6,236,479

年度末展は3月6日午前9時半～午後3時
北九州市小倉北区の毎日会館で開催！

梶田達二　「出帆（たびだち）」Ｆ６

◆美術展に力作並ぶ

障害のある人たちが、絵画や書を通じて社会参加を進めようという「第28回肢体不自由児・者の美術展」（当事業団など後援）が１月29日～２月２日、北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれ、多くの人たちが訪れた。

全国から応募があった６９３点のうち入賞作品を中心に、絵画45点、コンピューターアート12点、書21点、デジタル写真７点を展示。絵画部門で優秀賞に輝いた福岡市立西長住小６年、佐藤侑希さん（12）の「小学校の最後の組体操」や、佳作賞の長崎県立諫早養護学校高等部３年、永野銀次郎さん（17）の自画像「現実逃避」などの作品が並び、訪れた人たちは熱心に力作に見入っていた。